

## 4 国有林野の活用

### (1) 国有林野の活用の適切な推進

国有林野の活用にあたっては、公益的機能の発揮等との調整を図りつつ、農林業を始めとする地域産業の振興、住民の福祉の向上、再生可能エネルギーの利用による発電等に寄与するため、地方公共団体、地元住民等に対して国有林野の貸付けや売払い、共用林野の設定等を行っています。令和3年度末現在で約7万2千haの貸付け等を行っており、農地や採草放牧地が約1割、道路、電気・通信、ダム等の公用、公共用又は公益事業用の施設用地が約5割を占めています。また、東日本大震災からの復興のため、汚染土壌の仮置場等として、国有林野の無償貸付け等を引き続き行っています。

国有林野の活用



[https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu\\_rinya/gaiyo/kasituke/kokuyuurinyanokatsuyou.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/gaiyo/kasituke/kokuyuurinyanokatsuyou.html)

表－18 国有林野の用途別貸付け等の状況

(単位：ha)

区 分	(参考) 令和元年度	(参考) 令和2年度	令和3年度
農耕・採草放牧地	10,204 (14)	10,013(14)	10,022(14)
道路敷	14,354 (20)	14,271(20)	14,525(20)
電気・通信事業用地	17,020 (24)	17,296(24)	17,406(24)
ダム・堰堤敷	3,405 (5)	3,393(5)	3,441(5)
森林空間総合利用事業用地	9,058 (13)	9,062(13)	9,089(13)
その他	17,523 (24)	17,349(24)	17,286(24)
合 計	71,564 (100)	71,382(100)	71,768(100)

注：1 面積は、各年度末現在の数値である。

2 貸付け等には、貸付け、使用許可・承認を含む。

3 ( ) 書は、合計に占める用途別の比率(%)である。

4 計の不一致は、四捨五入による。

表－１９ 国有林野の用途別売払い状況

(単位：ha)

区 分	(参考) 令和元年度	(参考) 令和２年度	令和３年度
所管換・所属替	169 ( 87)	144 ( 58)	23 ( 51)
公用・公共事業用	24 ( 12)	80 ( 33)	19 ( 42)
産業振興用	0 ( 0)	22 ( 9)	0 ( 0)
その他	2 ( 1)	0 ( 0)	3 ( 7)
計	194 (100)	246 (100)	45 (100)

注：１ 売払いには、無償の所管換・所属替・譲与を含む。

２ ( ) 書は、計に占める用途別の比率(%)である。

３ 計の不一致は、四捨五入による。

## 事例 24 アイヌ文化の振興等のための共用林野の設定

(北海道森林管理局

石狩森林管理署)



- ・北海道千歳市(ちとせし)  
千歳市役所
- ・契約締結式(令和４年３月)

「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」により、共用林野制度を活用して、アイヌ文化の振興等の

ために利用する林産物を国有林野から採取することが可能になりました。

石狩森林管理署では、令和４年３月に、本制度を用いた２例目となる共用林野の契約を千歳市と締結しました。この契約により国有林野約2,500haからアイヌの生活用具や伝統料理に必要な「果実」「山菜類」「きのこ類」「薬草」等の採取が可能となりました。千歳アイヌ協会会長からは、「共用林野の契約によって、アイヌ文化の伝承に取り組んでいきたい。」との話がありました。

引き続き、アイヌ文化の振興等に寄与するため、共用林野制度の活用を含めた国有林野の活用を推進します。

## (2) 公衆の保健のための活用の推進

国有林野事業では、優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した森林を「レクリエーションの森」として国民の利用に供しており、令和3年度は、延べ約1億2千万人の利用がありました。

また、全国587か所の「レクリエーションの森」のうち、特に景観等の優れたものを「日本美しいの森 お薦め国有林」として平成29年度に93か所選定し、多言語による情報発信や重点的な環境整備等に取り組んでいます。

さらに、「レクリエーションの森」と国立公園が重複している箇所のうち、知床、日光、屋久島等を重点地域等として環境省との連携を強化し、保護と利用の両立を図りながら利用環境の整備等を推進するなど、更なる利便性や安全性の向上に取り組んでいます。

引き続き、地域の利用状況等を踏まえた上で、快適な利用環境が確保できるよう、地域と連携した管理体制の充実や歩道の整備等を進めていきます。

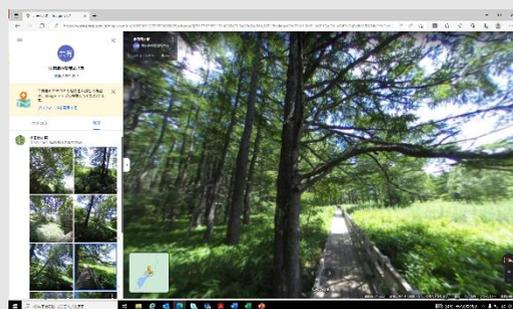
表－20 レクリエーションの森の現況及び利用者数

レクリエーションの森の種類	箇所数	面積 (千ha)	利用者数 (百万人)	代表的なレクリエーションの森(都道府県)
自然休養林	81	95	14	高尾山(東京)、赤沢(長野)、剣山(徳島)、屋久島(鹿児島)
自然観察教育林	87	22	9	白神山(岐阜)、白神山(岐阜)、白神山(岐阜)、白神山(岐阜)、白神山(岐阜)
風景林	150	82	70	えりも(北海道)、芦ノ湖(神奈川県)、嵐山(京都)
森林スポーツ林	26	3	2	筑波山(茨城)、滝越(長野)、扇ノ仙(鳥取)
野外スポーツ地域	166	49	13	天狗山(北海道)、裏磐梯デコ平(福島)、向坂山(宮崎)
風致探勝林	77	13	8	温身平(山形)、駒ヶ岳(長野)、虹ノ松原(佐賀)
合計	587	264	116	

注：1 箇所数及び面積は令和4年4月1日現在の数値であり、利用者数は令和3年度の参考値である。

2 計の不一致は、四捨五入による。

## 事例 25 国立公園と日本美しいの森 お薦め国有林の連携事業 (関東森林管理局 日光森林管理署)



- ・ 栃木県日光市(にっぽんうつく) 奥日光(おくにっぽんうつく)国有林
- ・ (左) 小田代原の風景 (右) ストリートビューでの風景

林野庁と環境省は、国立公園と国有林が重なる地域において、優れた自然の保護と利用の両立を目指して、国立公園と国有林が連携する様々な取組を全国で実施しています。

この取組として、日光森林管理署では、令和3年度においては、日本美しいの森 お薦め国有林の「小田代・湯ノ湖自然観察教育林」の湯ノ湖から西ノ湖までの遊歩道のうち約9kmの区間の風景を対象に、Google ストリートビューの機能を活用した情報発信を行いました。当該国有林を管理している同署と国立公園を管理している環境省日光国立公園管理事務所が連携し、全球カメラでそれぞれが把握している魅力的な箇所の情報を共有しながら撮影し、林野庁ホームページで公開しました。これにより、現地に行かなくても、多様な森林植生や豊かな自然景観の様子を楽しむことができるようになり、令和4年3月末時点で4万回以上の閲覧がありました。

今後も、環境省と連携しつつ、誘客ポテンシャルが高い地域等を中心に、利用環境の整備に取り組みます。

Google ストリートビューへのリンクを掲載した日光森林管理署のホームページ

<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/nikkou/torikumi/index.html>

